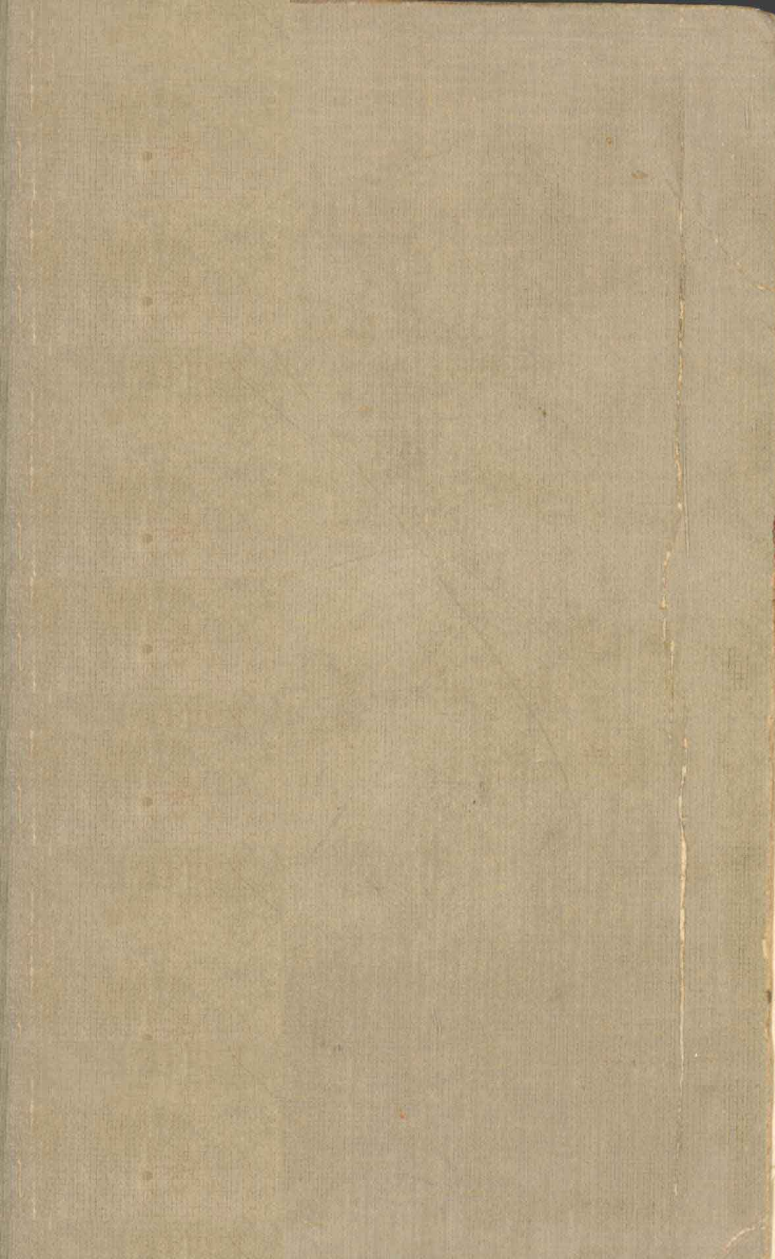




著者略歴

こうず・よしゆき

本名 神津充吉。1932年1月2日、東京・新宿に生まれる。麻布中学、国立音楽大学器楽科卒業。

作曲を信時 潔氏に師事。主として映画音楽の作曲を手がけ、現在まで約300作品。

歌謡曲には『ママ横を向いてて』『星空に両手を』『新妻に捧げる歌』などがある。TBSの『家族そろって歌合戦』では、酷評審査員として活躍。

1957年、中村メイコと結婚。現在一男二女の五人家族。

SANPŌ BOOKS—55

くたばれ中村メイコ

ぼくの英才教育

昭和48年11月28日 初版発行

★ 定価はカバーに明示してあります。

著者 　　こう　　ず　　よし　　ゆき
　　　　　神　　津　　善　　行

東京都世田谷区成城3—7—15

発行者 　　中　　島　　　　宏

発行所 　　　　　株式会社　　さん　　ぼう
　　　　　　　　　　　　産　　報

東京都港区浜松町 1—10—17 (〒 105)

電 話 東 京 (436) 4 1 5 1 (大代表)

振替 東京 3 6 7 8 6

印刷 第一印刷 製本 秋元製本

万一、落丁・乱丁がありましたら、お取りかえします。 Printed in Japan

0376-610355-2779

© 1973 Yoshiyuki Kōzu



くたばれ中村メイコ
ぼくの英才教育

こう ず よし ゆき
神津善行



Sanpō Books

まえがき

わが親友中村メイコは不思議な感覚のもち主である。

これは岳父中村正常の達観した人生哲学によるものであろう。

夕焼けはなぜ赤いかと問えば空が含羞^{はにか}んでいるからと答え、マカロニの穴はスパゲティを抜いた跡だと教える。

この非科学的な会話が、じつは中村正常の人間思考に対する一つの教育方針であり、また、これの持論なのである。

虹^{にじ}を渡って行きたいという子どもの夢を、科学的説明によって打ちこわすことはやさしいが、虹を渡ってみたいという発想を、科学的説明の後にもたせることはむずかしいことだという。

この考えかたのなかに、既成の形容詞に無感覚に依存する教育に反対する考えが含まれている。かれは、文学的表現の出発点ともいえる形容詞は、それぞれの人間の独創性をもってなされるべきであり、既成のものに無感覚に依存すべきでないという説をもっている。

まして、これを強制的に教えこむ幼児教育は、人間思考平等化以外のなにものでもないという。

これらのことが、かれの教育の原点となり、中村メイコは育てられてきた。

この方式の是非は後にふれるが、平均化を恐れたかれが、小学校教育だけに留めて、かの女を社会へおくり出したのである。

事実、小学校教育だけで大学教授とわたりあうことは容易なことではない。

それに耐えるかの女は能力と努力は、裏面にかくされて見えぬ部分を含めてちがったかたちをつくっている。

この異形な能力と努力が異彩を放って見えるとき、裏側にある不定形の突起した部分にしたたかに頭を打ちのめされ、しばしば前後不覚に陥る男が一人いる。

この男の名を神津善行という。

結婚以来十五年間、かの女の突起した部分から受ける打撃と戦い、数々の新戦術を編みだしながらも惨敗に涙し、ついに突起変形を試みて打撲損傷度を減少させ、とりわけ飛鳥のごとき早技で突起をかくぐり、その突起の測量に成功した男の、これは勇気と冒険に満ちた物語である。

目次

まえがき

第一章　これが中村メイコだ

1　三十九歳の少女……………12

2　父・中村正常まさつね……………19

3　頭デッカチがうけて映画出演……………26

4　結婚そして三人の子どもが生まれる……………31

第二章　ぼくの英才教育論

第三章

隠忍・攻防・運否天賦

いんにん

うんぶてんぶ

1	中村メイコの発想法——思考のあやとり……	48
2	空を見て夢駆ける心……	53
3	楽器性格論……	56
4	特殊教育の後遺症……	63
1	スケジュール考……	70
2	わが仏滅結婚式……	74
3	妊娠スケジュール……	80
4	再び妊娠スケジュール……	88
5	再び再び妊娠スケジュール……	96

第四章 育兒・教育・胎教と戦う

1 まずわが家の教育論

102

2 父親育児道

105

3 胎教は胎児教育にあらず

113

4 こころよい音とはなんだろう

117

5 音楽の特殊性

120

6 わが胎教論の実験

123

第五章 頓珍漢と戦う

とんちんかん

1 囲碁

128

第六章 女と戦う

2	靴		133
3	下着		141
4	手紙		148
5	病氣		155
6	毛		163
1	女とつきあう方法		176
2	捨て台詞 ぜりふ		180
3	悪口		188
4	目的と手段		195

第七章 終わりまで戦う

5	男らしさ	200
6	おしゃれ(1)	210
7	おしゃれ(2)	218
8	更年期障害	224

第八章 わが子に残す思考

1	くたばれ中村メイコ	234
2	がんばれ神津善行	240
	善之介よ 正義の旗をふれ	252

本文イラストレーション 小林泰彦

本文カット 中津逸三

第一章

これが中村メイコだ

1



三十九歳の少女

神津五月 昭和九年五月拾参日出生

父 中村 正常

長女

母 ちゑ子

昭和九年五月拾参日杉並区下高井戸一丁目二百五十一番地で出生父中村正常届出同月貳拾五日
受附入籍（小田印）

昭和参拾参年四月拾七日神津充吉と婚姻届出港区赤坂新坂町八十番地中村正常戸籍より同日入
籍（小田印）

この謄本は、戸籍の原本と相違ないことを認証する。

昭和四拾七年拾月壹日

東京都港区長 小田清一（読めぬ印）

かの女を証明するものは、気の毒なことに、このいまだ会ったこともない港区長の小田清一という人のものしかない。学生証の古いものでもあれば、と思ったが、本人が学校へ通ったことがないので学校で発行しようもない。

しかし、もし通学していたとすれば、とうぜん、かの女は後生大事に学生証を保存しているにちがいない。

だいたいお前さんは自分のオダイジ箱を整理したことがあるのか、整理のことはさておいて、三十八歳のオダイジ箱とはナニゴトだ、

下の子どもがもう小学校四年生になって大事箱（お前さんのはいまだにカタカナだ、子どもは漢字だぜ、オレはいやだよ）をやめたのにいまだにオダイジ箱でもあるまい。

オレよりオダイジな物があるかと先日そつと開けてみて驚いたぜ。

「^{へそ}臍の緒^お」

お前さんのあのつぶれた臍の三十八年前につながっていたというだけの義理を、なぜいまだにたてているのだ。死んだときに棺おけに入れるという妙なセンチメンタリズムはわからんでもないが、自分で自分の臍の緒を開けて見て、「うわあ、気味悪い！」といっているものを後生大事にあの世まで持って行く気がわからんと申しているのだ。

「貝殻」

この貝殻はどこで見つけたのだと聞いたらお前さんはなんといったと思う。

「どこだったかなあ……それは忘れたけれど大切なもの、昔から持ってるの、だから大切なもの」
オレはこんな非論理的理由でものを保存している人をみたことがない。

あとで役立つから、とか、記念にもらった物だからとか、歴史的に価値がある物だからというように、保存する意味というものがなければそれはただのゴミだぜ。

もしお前さんが保存していなくても海岸に置いておけば数百年はそのままあるはずだ。

だとすればそれは保存ではなく、せいぜい五、六十年間自己満足のために私有物化しているに過ぎない。

これは保存という美句に隠された陰惨なる女性のエゴイズムでなくてなんだろうか。「ちがうのよ、これが女の夢なのよ」

そりゃ、その貝殻に想い出があるとかいうのなら夢もわかるが、どこで何日に拾ったかも忘れた物子どものころから持っているという理由だけで夢にされちゃあ貝殻がかわいそうってなもんだぜ。オレはあの貝殻を見ているといまにオレは高村光太郎になるんじゃないかといやな気がするよ。

「戦時国債金伍円也」

これはお前さんのオダイジ箱の中では価値のなる可能性がある唯一の物だ。

しかし、稀少価値で何万円といわれても別にお前さんは売るわけじゃないのだからもうかったわけでもない。それに稀少価値がでるかどうかの問題についてのお前さんの考えかたが変だね。

「もしかしてまた戦争が起こって国債が売り出されたとするじゃない。そうするとこの国債はまえの戦争のときのものだから、まえのを持っている人は防空ごうを掘らなくていいとか、配給券のかわりに使えるとかなにかに役立つかもしれないわ」

「今度戦争が起きてもオレは防空ごうを掘る気はないし、配給券を政府が印刷する前に戦争は終わると思うよ」

「それじゃあ、いまのうちにお金に替えましょうか……日本銀行で換金できると書いてあるわよ」
「五円だぜ」

「うそよ、金利を入れて五円五拾銭よ」

「それではそれで土地でも買うか？」

「土地は無理よ、バカねえ」

「電話をかけても十円する時代だぜ」